



御殿場のワサビ3年連続最高位

第40回全国わさび品評会で受賞

第40回全国わさび品評会で、御殿場山葵組合の勝又敬一郎さんが最高位の特賞・農林水産大臣賞を、同組合の勝又京治さんが優秀賞・東京促成青果株式会社賞を受賞しました。

これを受け11月19日に梶穀組合長に、12月1日に勝又正美御殿場市長に受賞を報告しました。勝又市長は「御殿場地区のワサビが日本一だと証明されたことは大変光栄」と二人をたたえました。



勝又京治さん(左)・敬一郎さん(右)が勝又市長(中央)に報告



資材作製し青壮年部事業をPR

SDGs推進と食品ロス削減に貢献

青壮年部富士宮地区本部は「SDGsフードサイクルコミュニティ活動」の周知と活性化を目的に、新たにのぼり旗と横断幕を作製しました。

同事業では食品ロス削減に向け、ファーマーズ出荷者などから規格外野菜の提供を受け、調理実習などで野菜を必要とする市内小中学校に寄贈。荻真教部長は「活動をPRして集荷につなげ、SDGsの推進に貢献していきたい」と話しました。



野菜の寄贈式で新資材の横断幕を掲げる部員



一年の豊穡に感謝

三嶋大社の新嘗祭に野菜宝船を奉納

青壮年部三島函南地区本部と三島商工会議所青年部は11月23日、三嶋大社で行われた新嘗祭に野菜宝船を奉納しました。

部員が栽培した野菜を持ち寄り、全長5m、重さ3トン越えの野菜宝船を制作。前日の22日には白滝公園で禊祓を行い、三嶋大社まで奉納野菜をみこして運びました。祭典終了後には宝分けを行い、伝統行事と地元野菜をPRしました。



丁寧に野菜を飾りつける青壮年部員



品質向上・地産地消の推進へ

大豆の選別機を導入

中伊豆大豆生産組合はJAのめぐりチャレンジ事業の助成金を活用し、12月に新たな大豆の選別機を導入しました。従来機に比べ選別機能に優れ、品質向上や作業の効率・省力化が図れます。

同組合は、地域農業の促進と地元流通を事業の基軸とし、伊豆市の遊休農地活用にも貢献しています。同機の導入で収益性の向上を図り、大豆の生産量維持と地産地消活動の継続につなげます。



新たな選別機で作業をする生産者ら



高品質出荷へ意思統一

イチゴ生産者大会開く

富士地区苺部会は12月2日、富士宮農経済センターで生産者大会を開き、部会員や市場関係者、JA、経済連職員などが参加しました。

今期は12月に本格出荷を迎え、生産・販売の情勢報告や目ぞろえ会、講習会を実施。出荷基準の統一と栽培技術の向上へ意思統一を図りました。宮崎和洋部会長は「より良いイチゴの出荷に向けて、部会一丸となって頑張ろう」と呼びかけました。



目ぞろえ会では着色基準などを確認



農業振興に向け行政と意見交換

アグリサミット開催

JAと沼津市・裾野市・長泉町・清水町などで構成する農業振興協議会は、沼津市でアグリサミットを開きました。農業振興と農業経営の安定・発展に向け、新規就農支援の取り組みと展望について活発な意見を交わしました。

梶穀組合長は「持続的な地域農業の発展には新規就農者の育成支援は極めて重要であり、行政とともにできることに取り組んでいく」と話しました。



地域農業の発展に向け意見交換する首長ら



畑ワサビ収量増加へ

前作の課題踏まえ栽培講習会

あいら伊豆野菜部会は、令和5年から伊東市で畑ワサビの栽培に取り組んでいます。12月4日には栽培講習会を開き、ワサビのトップ営農指導員が栽培計画を説明した他、前作で課題となったアブラムシの定期的な防除の徹底を呼びかけました。

その後、部会員のほ場に移動し、11月に定植した苗の生育状況を確認。今期は前作よりも1カ月以上早い定植で、収量の増加を見込んでいます。



日吉新トップ営農指導員(左)から説明を受ける部会員



生産振興へ栽培品種検討

カーネーションの試作品種を調査

東伊豆町花卉園芸組合は、カーネーションの生産振興に向けて栽培品種の検討を進めています。

12月には、同組合役員やJA、県などの関係者が同町の5カ所のハウスを巡回し、試作品種の生育を調査。品種ごとの生育や1株当たりの収穫本数などを確認しました。1月には同結果と実際に収穫した切り花の出来を見比べて参考にし、次期作の品種を選抜しました。



生産者やJA職員らが試作の花の生育状況を調査